

第4回「弥富市地域公共交通活性化協議会」 議事録

日時：平成29年3月16日（木）

午後1時30分から

場所：弥富市 十四山支所 第4会議室
（十四山支所3階）

○議 事

1.開会

事務局 （羽飼）	・ただ今から、平成28年度 第4回弥富市地域公共交通活性化協議会を開催する。
-------------	--

2. 弥富市長挨拶

事務局 （羽飼）	・最初に、服部弥富市長よりご挨拶をいただく。
服部市長	・皆さま方におかれては年度末の大変お忙しい中、私どもの公共交通活性化協議会に足を運んでいただき感謝する。 ・平素は私どもの行政に大変なお力添えをいただいていることをこの場を借りて厚く感謝申し上げます。 ・協議会も今年度第4回と会を重ねてきた。きんちゃんバスのその後についての効率化や、一人でも多くの方にご利用いただきたいという利用者の拡大において議論を進めてきた。 ・お手元の議題にもあるように十四山地区住民アンケート結果等について皆さま方と意見交換をしていきたいと思っている。また、29年度事業計画及び予算も議題になっているので、どうぞよろしくお願いする。
事務局 （羽飼）	・会議に入る前に三重交通(株)桑名営業所で人事異動があり、所長として新たに小黒様がおみえになられたので、ご紹介を申し上げますと共に一言お願い申し上げます。 - 三重交通(株)桑名営業所長 小黒様 挨拶 ・本日の会議資料の確認をさせていただく。
事務局 （久野）	会議資料の確認をする。 事前にお送りした資料として、 ・平成28年度 第4回弥富市地域公共交通活性化協議会 次第 ・資料1：十四山地区住民アンケート結果等 ・資料2：平成29年度弥富市地域公共交通活性化協議会 事業計画(案) ・資料3：平成29年度弥富市地域公共交通活性化協議会 予算(案) 本日机の上に配布させていただいた資料として、 ・配席表
事務局	・今後の議事については、議長の山崎先生にお願いする。

(羽飼)	
------	--

3.議題

(1) 十四山地区住民アンケート結果等について

山崎議長	・公益財団法人 豊田都市交通研究所の山崎である。よろしくお願い申し上げる。 ・議題に入る。 ・本日の議題は2つある。「(1) 十四山地区住民アンケート結果等について」「(2) 平成29年度弥富市地域公共交通活性化協議会事業計画及び予算(案)について」である。 ・「(1) 十四山地区住民アンケート結果等について」資料1を使って、事務局より説明をお願いします。
事務局 (久野)	○資料説明 ・右肩に資料1とある「十四山地区住民アンケート結果等」を基に説明させていただきます。 ・まず、十四山地区住民アンケート調査について、調査は十四山地区在住の15歳以上の1,000名を対象に実施し、回収は522名、回収率は52.2%と多くの方にご協力をいただきました。 ・配布した調査票などについては1ページ、次の2ページに掲載している。 ・次に3ページ目からが調査結果となる。 ・東部ルートの利用状況については、「利用していない(東部ルートが運行しているのを知っていた)」が70.3%と最も多く、「利用していない(東部ルートが運行しているのを知らなかった)」の23.6%となっている。 ・また、東部ルートを「利用している」は4.0%となっている。 ・次に4ページをご覧ください。 ・属性のうち、性別については女性が多くなっており、下段のグラフに示している利用状況別で見ると、女性が81.0%と非常に多くなっている。 ・次に5ページ、年齢についてである。 ・全年代から回答は頂いているが、下段のグラフに示している利用状況別で見ると、「利用している」の半数以上が「65歳以上」となっており、「利用していない」では若い世代が占める割合が多くなっている。 ・次に6ページ、職業についてである。 ・下段のグラフに示している利用状況別で見ると、「利用している」は「無職」が47.6%と多くなっており、「利用していない」は「会社員・公務員」や「パート・アルバイト」、「学生」が多くなっている。 ・次に7ページ、住まいについてである。 ・「鍋平」が9.4%と最も多くなっているが、全地区から回答を得ている。 ・下段のグラフに示している利用状況別で見ると、「利用している」は「西蜷」「亀ヶ地」「下押萩」などで多くなっており、廃止を検討している区間付近の大山、五斗山、鍋平、坂中地においては利用していると回答された方はいなかった。 ・また、利用者が少ない地区ほど「東部ルートが運行しているのを知らな

	かった」割合が高くなる傾向にある。 ・次に8ページ、運行の見直し意向についてである。 ・上段の円グラフに示している回答者全体では「現在の運行経路が良い」が4.8%に対し、「新しい運行経路が良い」が22.1%と、「新しい運行経路が良い」と考えている方が多くなっている。 ・また、下段のグラフに示している利用状況別で見ると、「利用している」では、「現在の運行経路が良い」「新しい運行経路が良い」「どちらでも良い」がそれぞれ33.3%と同等の割合となっている。 ・「利用していない」では、「現在の運行経路が良い」よりも「新しい運行経路が良い」が多くなっている。 ・次に9ページ、自宅から外出する場合の利用駅についてである。 ・ここで訂正で、1文目に「近鉄佐古木駅」が55.0%と多くなっておりとなっているが、43.3%の誤りですので修正をお願いする。 ・上段のグラフに示している回答者全体では、「近鉄佐古木駅」が43.3%と多くなっており、「近鉄蟹江駅」や「近鉄弥富駅」も多くなっている。 ・次に10ページ、弥富市内でよく利用する施設や利用したい施設についてである。 ・公共施設では「十四山支所」、商業施設では「ピアゴ十四山店」「Yストア佐古木店」「イオンタウン弥富ショッピングセンター」が多くなっており、「海南病院」や「十四山郵便局」も多くなっている。 ・続いて12ページ、東部ルート各バス停利用状況についてである。 ・12ページの表では、左からバス停名、年度別の各バス停の平均乗車人員、それぞれのバス停について、停車するきんちゃんバスのルートを示している。 ・また、今回廃止を検討している区間のバス停には、薄く緑色で着色をしている。 ・次の13ページ、14ページには、12ページの表でも示した年度別の各バス停の平均乗車人員についてグラフで示している。 ・各バス停の利用状況の推移を見ると、今回廃止を検討している「ピアゴ十四山店」～「五斗山」間のバス停の乗車人員が過去も含め少なくなっているのがわかる。 ・最後に15ページ、東部ルートの見直し方針案についてである。 ・ここまでで説明させていただいた、調査結果をまとめると、【十四山地区住民アンケート】では、回答者全体では「現在の運行経路」よりも「新しい運行経路」が多い、東部ルート利用者では「現在の運行経路」と「新しい運行経路」が同等、東部ルート未利用者では「現在の運行経路」よりも「新しい運行経路」が多い。 ・【廃止検討区間の利用状況】では、過去も含め、廃止を検討している「ピアゴ十四山店」～「五斗山」間バス停の利用が少ない。 ・また、平成28年度のモニタリング調査として実施した利用者アンケートにおいては、きんちゃんバスの不満な理由で最も多いのは「運行本数が
--	--

	少ない」、となっている。 • これらを踏まえると、東部ルート利用者の意見は分かれているものの、廃止検討区間のバス停の利用者は少なく、未利用者では新しい運行経路が良いという意見が多くなっている。 • また、バス利用者の不満な理由では運行本数が少ないという意見が最も多いことから、下段の図に示すような、新しい運行経路への見直し検討を進め、運行本数を増加させることで利便性を向上させるとともに、新たな利用者が増加することを期待したいと考えている。 • 以上で議題（1）十四山地区住民アンケート結果等についての説明を終わる。
服部市長	• 十四山地区の場所を言っても、委員の方はほとんどご理解いただけないと思う。皆さんにご提案する東部ルートの現状の運行ルートのマップはないのか。それをこういう形からこういう形で変更するというものがないとたぶん理解されない。現在の東部ルートはこういう形になって、皆さんのお手元にあるのか？
事務局	• 現在の運行ルートのダイヤを今からお持ちさせていただく。
山崎議長	• かなり小さくて見にくい調査票の縮小が 2 ページに貼ってある。その左側が現状である。 • 今、事務局で現状のルート図を準備していただいている。 • どう運行されているか簡単に説明をお願いします。
事務局 (久野)	• 東部ルートは青い線になっている。その中で「ピアゴ十四山店」が、上の「佐古木駅」のところから少し西の方にいったところにあると思うが、この「ピアゴ十四山店」からその次の下の方に向かって「JA 支援センター」「坂中地」「五斗山」とあるが、ここの区間をなくすことによって真ん中のこのルートがなくなるという形で今は検討している。 • 「ピアゴ十四山店」については北部ルートのバス停でとまっているので、そちらでカバーできる。
山崎議長	• 今のこのルートというのが変わった形をしている。左端にある赤い楕円で書かれている「総合福祉センター」がすべての起点になっていて、ここから一本線で他の路線も 3 路線すべて重なっているところを一番の弥富の街の中を通過して、ずっと降りてきて右の十四山の方に向かっていった後、ぐるっと回るようになっている。ぐるっと回るのを 1 本おきに右回り、左回りとしている。 • 今回、アンケートで市民の方々に提示した案というのが、事務局から説明があったバス停を廃止して、要するに真ん中あたりの縦に走っている部分がなくなるから、一本線になる。一本線で行って帰ってくる、行って帰ってくるという運行の仕方になる。 • アンケートの結果、それから利用状況を踏まえた方針に関しまして、ご意見、ご質問をいただきたいと思う。いかがか。 • 今回のアンケートは利用者に限らず、住民に対して行った調査である。利用者の数は全部で 21 人。522 人いる内の 21 人は少ないと言え少な

	いが、そういった方々の中で意見を聞いてみると回答されている方が 12 人なのか？運行の見直しの意向を見ると、9 人は無回答？
事務局 (久野)	・ そうである。9 人はその欄については無回答である。
山崎議長	・ 21 人の内の 12 人、4 人ずつが「現在の運行経路が良い」「新しい運行経路が良い」「どちらでも良い」ということである。利用している方の意見はこういうふうに分れているが、利用していない方を見てみると新しいのがいいんじゃないかという意見があった。利用していない方の中でも東部ルートを知らない人もいた。知っている人だけを見ると 50%の方が新しい運行経路が良いという意見があった。 ・ こういったことを踏まえて事務局の案としては、アンケートで提示したそのものである。その案で改編していこうという方針を出していってやるということだが、いかがか。
佐野委員 (公募委員)	・ どうしても本数が少ない。私は車が運転できるので利用していないが、お年寄りの方はバス停まで歩くと遠い。皆さん本数があると…とおっしゃる。今のルートだとぐるっと回るので、目的地まで時間がかかり過ぎるから利用しない。福祉センターに行く方が結構利用される。もう少し本数を増やしてもらいたい。
事務局 (羽飼)	・ 貴重なご意見、感謝する。馬ヶ地地区にももちろんバス停がある。たまたまお住みになっているところがバス停から遠いということはあると思う。実際に本数が少ないので、利用者が少ないというのは念頭にあるので、これにより本数が増えるという改善をしたいと思っている。確かに利用者の少ないところを減らせていただいて、その結果、今までに比べ完全なる往復スタイルになるので、1 日 4 便出せるようになる。利便性は前に比べて 2 便増えるコースと 1 便増えるコースがあり、改善されるのでご理解をお願いしたいと思っている。
山崎議長	・ アンケートの中で提示していった案で、はっきりと便数が増えるという示して回答いただいたということである。 ・ 他にいかがか。 ・ 私からお伺いするが、こういう方針で改変していこうとなった時に、毎年利用者調査をやっている。利用者に改めて改変していくようなことを聞くことはされるのか。
事務局 (久野)	・ 今回ここで、この方向性でいくと決まった場合、今後どういうふうにご利用者の方、また十四山地区の方、バス停がなくなる地区の方について説明させていただくかというのは、今後の検討として行っていきたい。とりあえず今回の場については、この方向性で考えていく。バスの運行本数についても、これ以上増やせるかどうかという話も出てくるので、それが固まってから聞かさせていただきたく思っている。
山崎議長	・ よろしいか。 ・ 今日、事務局が示された方針案として見直ししていくということ。見直しの具体的な案としては、アンケートにも提示したようにバス停をいく

	つか廃止し、ループ状になっていたところをやめて、ピストン輸送というか行ったり来たりのシャトル輸送のような形で一本線にする。基本的な案があった上で、今後詳細な調整、協議をしていく。という方針でよろしいかということを皆さま方にご審議いただきたい。この方針案を承認される方は挙手をお願いします。
委員一同	(異議なし)《承認》
山崎議長	・全会一致である。 ・あくまでも基本の形なので、今後どうなっていくかということはまたこの会議で詳細を詰めていくことになるかと思う。この方針で事務局で進めていただきたいと思います。よろしくお願いします。

3.議題

(2) 平成29年度弥富市地域公共交通活性化協議会事業計画及び予算（案）について

山崎議長	・議題（2）平成29年度弥富市地域公共交通活性化協議会事業計画及び予算（案）について、事務局より説明をお願いします。
事務局 (久野)	○資料説明 ・平成29年度弥富市地域公共交通活性化協議会事業計画及び予算（案）について、資料2、3を基にご説明する。 ○資料2説明 ・まず、資料2、平成29年度弥富市地域公共交通活性化協議会 事業計画（案）についてである。 1. 弥富市コミュニティバス運行について ・平成28年12月に改正したダイヤによる運行を継続する。なお、国の「地域公共交通確保維持改善事業」という補助事業のうち、「地域内フィーダー系統確保維持事業」を活用し運行する予定である。 2. 運行の検証、改善方策の検討について ・「利用者実態調査」や「モニタリング調査」等の必要な調査を実施する。 ・また、運行の検証と改善方策の検討においては、利用者実態調査やモニタリング調査等の結果から運行の検証を行うとともに、東部ルートや南部ルートにおける改善方策を検討する。 3. 利用促進策の実施について ・「利用者負担軽減策の実施」に関しては、コミュニティバス利用者の金銭負担の軽減を図り、利用促進を図るため、75歳以上の方への無料パスカードの配布のほか、シルバーパスや定期券、回数券の販売、乗継券の発行を継続して実施する。 ・「利用促進策の検討・実施」に関しては、コミュニティバスの利用促進を図るため、サイクル&バスライド駐輪場設置を継続するとともに、無料お試し乗車券の配布を実施する。 ・また、その他にも「弥富市地域公共交通網形成計画」において位置づけられた、分かりやすい情報提供による利用促進検討や、認知度向上による利用促進検討などの利用促進策について実施を検討する。

	4. 平成30年度生活交通ネットワーク計画の策定について ・平成28年3月に策定した「弥富市地域公共交通網形成計画」や、「平成29年度地域公共交通確保維持改善計画」、平成28年度事業（自己）評価結果等を踏まえ、「平成30年度地域公共交通確保維持改善計画」を策定する。 5. 協議会の開催について ・予算・決算、運行の検証や改善方策の検討結果等に基づく次年度事業計画の承認等のため協議会を開催する。 ・協議会の開催と作業の概ねのスケジュールを2ページ目に示している。協議会は計4回を予定しており、作業の進捗にあわせ、適宜開催していく。 ○資料3説明 ・平成29年度弥富市地域公共交通活性化協議会 予算（案）について資料3を基に説明する。 【資料に基づき説明】 ・平成29年度弥富市地域公共交通活性化協議会事業計画及び予算（案）については、以上となる。
山崎議長	・ただ今、ご説明いただいた平成29年度弥富市地域公共交通活性化協議会の事業計画（案）、予算（案）に関してご意見、ご質問等をいただきたいと思います。いかがか。 ・資料2、事業計画の「運行の検証、改善方策の検討」の中で、東部ルート of 改善の検討は先ほどの議題にあったようにアンケートをとって改善していこうということが具体的に動いている。南部ルートに関しては、今後検討に入っていくが、こんな検討が想定されるというようなことを簡単に、もし今の段階で事務局で考えていることがあれば皆さんにお伝えしていただきたい。具体的にまだ何も定まってないようなところがあれば、何が問題になってというようなところがあればお話いただけると思います。
事務局 (久野)	・具体的にどうこうというのはまだ定まっていない。ただ、地元の市民の方からも本数等、東部ルートと似たような問題が挙げられているので、幹線化等も含めて本数を多くできないかと、当然予算等の話もあるのでそこも含めて、今後皆さまのお力をお借りして検討させていただきたいと考えている。
山崎議長	・もし必要あれば東部と同じようにアンケート調査もやっていくということか？
事務局 (久野)	・その通りである。
山崎議長	・他にいかがか。
服部市長	・地域公共交通という形の中でコミュニティバスをスタートさせていただいて以来、6～7年経つ。この後にご審議いただく予算等も年間1億弱かかって、当初の国からの補助金はほとんどいただけない状況である。我々、

	行政側の負担が非常に大きいということはこの数字を見ていただいてもわかる。また、利用客数の半分以上は無料のお客さまというような状況である。 ・我々としては、平成29年度は行財政改革ということを進めていかないといけない立場にある。今日は28年度の第4回目だが、これから29年度の会議が1回、2回、3回、4回予定をさせていただいている。今までのコミュニティバスに対する様々なご意見もいただいているが、本当に皆さんの方から今後どうしていくんだというようなことも踏まえて忌憚のない意見をいただきたい。 ・市民の皆さまの足として使っていただくということは大義としてあるけれども、相当な持ち出しがあることに対して、地方自治も大変いろんな意味で疲弊をしているので、これからの29年度の会議において忌憚のないご意見をいただきたい。そして、例えばその他項目で「私はこういうふうに考えている」というような意見もいただければ幸いである。よろしくお願いします。
山崎議長	・いかがか。 ・はい、どうぞ。
木全委員 (公募委員)	・今、市長さんが言われたけど、基本的には昔は三重交通さんが走っていた。それが路線バスとしての営業は難しいということで、全国各地路線バスの撤退が進んでいて、過疎地域は人口減少、都市部においても渋滞等によって運行が不規則ということで敬遠されるようになって、都市部でも路線バスが縮小されてきている。 ・路線バスが撤退した後に、各市町村がコミュニティバスを運行し始めるというのは十数年前から流行りになってきた。基本的には絶対儲からない。黒字には絶対ならないところへ、あえて住民の足を確保するということで、ある程度税金を投下して運行しようということである。それがどこまで税金が許されるか。費用対効果をきちっと考えながらやらないと、これから人口も減少する、一方高齢化社会によって自動車免許を返上する人も出てくるであろうということで、利用は我々団塊の世代がいなくなるまではそこそこ続くだろうと思うけど、その先はわからない。 ・この地域だけを見ていてもいけないので、できれば全国各地やっているので、支局さんとか愛知県さんから事例をいっぱい紹介していただいて、類似しているところの良いところを取り上げて広い目で事例を拾いながら、それを参考にしながらこの地域に合った運行形態を探していくことも必要である。 ・今回、十四山もぐるぐる回っているのを一本にするということで、基本は本数が一番中心だと思う。本数が減ると、1時間に3本あったのが2本あって、どんどん減らしていくことによって縮小再生産というか悪循環を断つためには基本的には本数をできるだけ増やすということである。本数を増やすことと費用対効果をどうするかというのが非常に各市町村も全国的に悩んでみえるようなので、そこら辺も計算しながらやっていく

	といいのかと思う。
山崎議長	・運輸局さんや県の方で最近の事例集みたいなものは集めているのか。だいぶ前に局の方でデータベースを作るとかそんなこともやっていたことがある？
渡邊委員 (愛知運輸支局)	・中部運輸局のHPのところに、各市町村の好事例みたいなものは載せているので、ぜひその辺も参考にさせていただけたらと思う。
山崎議長	・会議の資料としてそういった興味深いようなものがあつたら、「その他」の議題の中で皆さんに紹介するような時間も取ってもいいかもしれない。
事務局 (久野)	・事務局としてはそれを読ませていただいて参考とさせていただいているところである。次回の会議の時には参考資料として皆さまに配布させていただこうかと思うので、よろしくお願いします。
山崎議長	・他にいかがか。 ・せっくなので市民代表の方々、一言ずついただきたいと思う。伊藤さんいかがか。どんなことでも結構である。
伊藤委員 (弥富市女性の会)	・確かに東部の方も運行しているのを知らないという方が多くみえる。我々の方でも、どこどこへ行こうと思うと結局くるくる回っていかなければいけないので、遠くてとても時間が倍ぐらいかかるからということで乗らない人が多い。どうしても全部のところを回することはできないから結局はそうなるかと思う。 ・本数の件もある。学校へ行く子だと朝、夕はいるし、年寄りだと昼間に買い物に行きたい。なかなか私たちが思うような本数を出すということは難しいなとつくづく思う。これだけ経費をかけても乗る人が本当に少ないので、どういうふうにしたらいいんだろうと今も話をしていたところである。
山崎議長	・委員として参加していただいて、そういうことをしっかり理解していただけるとするのは本当に良いことだなと思う。他の方々にも近所の人たちや皆さんにも伝えていただけるといいのかなと思う。
伊藤委員 (弥富市女性の会)	・私たち女性の会では、少ないが毎年1回は乗るようにいつも心掛けて、今年度も6月にきんちゃんバスに乗ろうという計画はしている。
山崎議長	・それでは、福田さん。運行始めた当初からの一番古株の委員でいらっしゃるが、いかがか。
福田委員 (民生委員協議会)	・私は便利なところに住んでいるので、バスに乗ったのは一度だけである。南部ルート、一番長いところを孫を連れて乗ってみた。戻ってくるのに2時間かかった。そして今もこの地図を拝見して、私がバスでここへ来るにはどうやって来たらいいと今も地図を見ていたが、一度近鉄に乗って佐古木駅まで行ってバスに乗らないと、この十四山支所へは届かない。だからあまりにも弥富市は広すぎて、前みたいな行き届いたことではなくて、これだけ距離が広く延びたので使わないところは省略してもらわないと余計、本数も増やすことはできない。本数を増やしてほしいと言

	っても果たして乗ってくださるかどうかという点も問題である。どうしたらいいのか。
山崎議長	・十四山はなかなか不便なところである。その背景があって今回の見直しというのがあるわけである。 ・それでは、日野さん願うする。
日野委員 (福寿会連合会)	・高齢者はショッピング、あるいは病院に大変皆さん便利に活用していただいているが、やはり利用者は限定される。バスを見てもなかなかいっぱいに乗っているのは少ないなと感じがする。先ほど、先生がおっしゃたようにバスに乗ったらこんな楽しみがあったよとか、暇を見てじいちゃん、ばあちゃん揃って行こうよとか、そんなことを少しは何かの機会に知ってもらうのは大事なことかなと感じている。
山崎議長	・では、壁谷さん願うする。
壁谷委員 (弥富市区長会)	・先ほど費用対効果というのがあったが、バス停の利用人員というのはバス停で乗った人の人員か？
事務局	・はい。
壁谷委員 (弥富市区長会)	・いろんな車両を使ってルートを走っているが、車に乗っている実車率をやはり調査していかないと、ルートが必要があるのかないのかというのははっきりしたものが出てこない。いろいろ車を運行させる場合、実車率というのが実際に乗っているかどうか、駅を利用ただけでこの人はどこまで乗っていくのか、隣のバス停で降りるのか、さらには遠いところまで行っているのかといったことを含めて実車率を調べていただくことによって効果のある運行、さらには効果のある車両の大きさというものが出てくる気がする。 ・昔だと大型バスがぐるぐる走っていた。今は中型になるのかな。大型バスがぐるぐる走ると、我々住民から見ると非常に不経済なバスの運行だった。今は中型が多いからそういうのは改善されてきているのかなと思う。そういう面でバス停の利用者だけでなく、このルートでこの地区の実車率はどうかというものを調べるといろんなことが見えてくるのではないかと私は感じている。
日野委員 (福寿会連合会)	・壁谷さんのお話で、バスの大きさの話があったが、現行のバスより小さいバスの運行はあまり効率が良くないとか、そういうことがあるのか？
山崎議長	・そこも含めて事務局からお話いただけるか。
事務局 (久野)	・実車率の話だが、毎年やっている乗降調査の期間では、乗車場所と下車する場所の調査をしている。短い期間だったら、今会長さんが言われた実際に乗っているかどうかというのはわかるが、1年間はさすがにとっていない。毎年、アンケートの結果としてそちらの方は出させていただいて、毎年の調査としてやらせていただいている。 ・日野会長さんが言われたバスの関係だが、バスは結構長い間を利用するので、今、例えば中型バスがあるがそれをやめるのが効率・非効率という話…変えるのが効率的でないという話ではなくて、バス自体の使用で

	きる区間の途中でやめることがもったいない。バス自体、耐久年数があるのに、あと5年10年も使えるのに、何千万も使って買ったのに、それを新しいのに交換するというのもったいない。一番最後の新しく交換する時にもう少し小さいのに変えようとか、そういうことは検討している。ただ、終わるまでの年数がまだ何年もあるので、その時に検討したいと考えている。
山崎議長	・ よろしいか。 ・ いろいろご意見をいただいたが、行政側の方々で何か言っておきたいこととかあればお願いします。 ・ 議題の2つ目「平成29年度弥富市地域公共交通活性化協議会事業計画及び予算（案）」に関しまして、ご審議いただきたいと思う。事務局から提示されたこの案、承認される方は挙手をお願いします。いかがか。
委員一同	(異議なし)《承認》
山崎議長	・ 承認いただいたので、この事業計画（案）を取っていただきたいと思う。

3.議題

(3) その他

山崎議長	・ 議題（3）その他であるが、何かあるか。
事務局 (羽飼)	・ 特にない。
山崎議長	・ 他の方々も「その他」で何か言っておきたいこと、あるいは今日の議論の中で言い残したこと等すべて含め、何かあればお願いします。
佐野委員 (公募委員)	・ ここには南部ルートの方がいらっしゃらない。本当に南のほうの方も大変だと思う。お友達がいるから聞くと、考えていないというお話を伺う。本当はこういう会議に南部ルートの方も入っていただくと、もっと意見が出るのではないか。
山崎議長	・ すごく良いこと言ってくださったと思う。一番の基幹的な路線なので、その路線の沿線の方々がいけないというのは考えた方がいいところである。その辺は考慮した方がいいかなというご意見である。
福田委員 (民生委員協議会)	・ 私、先ほど南部ルートに乗ったと言ったが、途中で乗ってきたおばあちゃんがみえて、自転車を栄南小学校に置いて乗ったと。今までは私の家の前までバスが来てくれたけど、こんな良いバスになってから不便になって、自転車で来ないといけないので雨の日は使えない。今までがドアツードアみたいな運行だったからそれは仕様がなかったら、だからみんな乗らないと。多くの人たちは簡単な方に慣れてしまっているので、改善がすごく難しい。 ・ 家の前をここのバスが何台も通る。木曽岬のバスも一日中通る。私も気になるので見てみると、朝は駅へ向かうバスは立っている人もあるぐらい乗っている。帰りも6時過ぎると、満員である。両側を走っていたバスが真ん中一本だけを走るようにしたそうである。地形にもよるが、その方がたくさん乗ってくれるようになった。前は1時間に1本ずつ走ってい

	た。そういう考えもどうかと思う。
山崎議長	・おっしゃる通り南部ルートの設定の考え方のひとつにそういうのはある。今2本で両側である。そのあたり、来年度の検討として考えていただきたい。 ・最初にお話のあった南部ルートを検討していくからには、やはり南部ルートの方がいたらいいなというところはあるが、難しいのか。委員さんがいろんな市民団体の代表者という方、公募の方という形になっているので、地域代表南部ルートの沿線代表とか…。沿線代表というやり方はある？
事務局 (久野)	・一度、他の市町村の例も陸運局さんにもお聞きして、どういった方法があるか検討はしたいと思う。4月からすぐというわけにはいかないかもしれないが、検討させていただく。
山崎議長	・ よろしく願います。 ・ 他、よろしいか。 ・ 議題はこれですべてである。 ・ 進行を事務局にお返しする。
事務局 (羽飼)	・ 今回にて平成28年度最後の協議会となる。また、委員の皆さまには平成27年度、28年度の任期2年間、合計8回の協議会にご協力いただき感謝する。 ・ 来年度も本協議会については継続していくが、公募委員の佐野さまと木全さまにおいては今回の協議会が最後の協議会となる。感想をいただこうと思ったが、すでにいただいたので割愛させていただく。 ・ 公募委員のお二方には、多くの忌憚のないご意見を出していただき、大変感謝している。重ねてお礼申し上げます。 ・ 連絡事項であるが、次回の平成29年度の第1回協議会は6月を予定している。日程が決まり次第ご案内させていただくので、よろしく願います。 ・ 以上をもって、平成28年度第4回弥富市地域公共交通活性化協議会を終了させていただく。今後ともご協力賜るようお願い申し上げます。
	以上